

令和 2 年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人八尾市文化振興事業団	
施 設 名	八尾市文化会館	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	公 演 事 業	10,355 (千円)
	公 演 事 業	5,786 (千円)
	人 材 養 成 事 業	1,433 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	3,136 (千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概 要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	まちで魅了する舞台事業 1 大谷康子ヴァイオリンリサイタル	令和2年10月18日 (日)	出演：大谷康子（ヴァイオリン） 渡邊一正（ピアノ）	目標値	930／1,064 席
		大ホール		実績値	450人／703 席※
2	まちで魅了する舞台事業 2 まちの名所とコラボレーション編 ①大坂夏の陣の爪あとを残す八尾の古刹で聴く講談会 ②文学座俳優松岡依都美がよむ旧家で楽しむ朗読 ③大阪フィル交響楽団メンバーカールテットロツソによるやまんねき音楽会	①令和2年10月28日 (水)	①出演：旭堂小南陵・旭堂南龍 ②出演：文学座俳優 松岡依都美・音道あいり 演出：稲葉賀恵（文学座） ③大阪フィルハーモニー交響楽団 弦楽器奏者 宮田英恵・黒瀬奈々子・岩井英樹 石田聖子 観世流シテ方 水田雄悟	目標値	130／50×3 公演
		②令和2年12月6日 (日) ※			
		③令和2年11月15日 (日) ※		実績値	166人／50 人×4公演 ※
		①常光寺 ②安中新田会所跡旧植田 家住宅 ③古民家再生プロジェクト 茶吉庵			
3	地域拠点契約事業 1 文学座公演「五十四の瞳」	令和2年11月18日 (水)	作：鄭 義信 演出：松本祐子（文学座） 出演：松岡依都美・たかお 鷹 神野 崇・越塚 学・杉宮匡紀・ 川合耀祐・山本道子・頼経明子	目標値	304/362 席
		小ホール		実績値	190人/190 席※
4	地域拠点契約事業 2 大阪フィルハーモニー交響楽団八尾演奏会	令和3年2月7日（日）	出演：大阪フィルハーモニー交響楽団 角田鋼亮（指揮） 金子三勇士（ピアノ）	目標値	1,155/1,440 席
		大ホール		実績値	682人/703 席※
5	子どもの素敵な舞台との出会い事業 Yao 人形劇まつりスペシャル（仮称）	令和2年4月25日 (土)～26日（日） (中止)	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	450／450 席 (4 公演)
		レセプションホール		実績値	一※
6	伝統芸能鑑賞促進事業 2020 年度全国公文協統一企画 松竹大歌舞伎『片岡仁左衛門』公演（仮称）	令和2年4月24日 (金) (中止) ※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	2,285/1,425 席×2 公演
		大ホール		実績値	一※
7	三井住友海上文化財団ときめくひととき	令和3年1月17日 (日)	公演に助成元である企業名の冠がついたことから申請取り下げ。	目標値	312／390 席

番号	事業名	主な実施日程	概 要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		実績値	
	第 888 回 クドウ・シ ゲノリ・フルート・ア ンサンブル	小ホール			—

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	演劇実演芸術家養成事業 八尾プリズムホール演劇 助成事業 Prism Partner's Produce (プリ ズム パートナーズ プ ロデュース)	令和2年12月11日 (金)～13日(日)	演目：遊気舎 「おじいちゃんとかげのたち」 作・演出：久保田浩(遊気舎) 出演：遊気舎所属俳優・客演 計15名 舞台監督：永易健介、宮田重雄 照明：池田哲朗(PAC west) 音響：Alain Nouveau (Alain Nouveau 音楽事務所) 舞台美術：宮田重雄	目標値	助成団体 1団体／ 鑑賞者 500
		小ホール		実績値	助成1団 体／鑑賞 者248人 ※
2	地域文化サポーター養成 事業 プリズム市民サポ ーター活動	令和2年10月1日 (木)～令和3年3月 31日(水)※ 八尾市文化会館 市内各所	市民ボランティアによるボラン ティア活動を会館職員がファシリテ ートした。	目標値	25
				実績値	26
3	地域の次世代実演家養成 事業1 吹奏楽クリニック	令和2年6月～令和3 年3月 八尾市立中学校各校	講師：大阪フィルハーモニー 交響楽団楽団員 講師が各中学校吹奏楽部を訪問し、 各種指導を行った。	目標値	受講者 300
				実績値	受講者 229
4	地域の次世代実演家養成 事業2 子ども河内音頭講 座 ①唄・楽器の講習会 ②踊り方講習会	動画配信※	(新型コロナウイルス感染症の影 響により、実地講座を動画配信に切 り替えた) 講師：(唄・楽器) 八尾本場河内音頭連盟 音頭取り (踊り) 山崎美恵鷺	目標値	受講者 30
		—		実績値	視聴数 10,600 回
5	大学からのインターンシ ップ受け入れ事業	令和3年3月10日 (水) ※ レセプションホール	(新型コロナウイルス感染症の影 響により、規模を縮小して実施。) 相愛大学大学院音楽研究科と子ど も・障がい者をターゲットとした 「フレンドリーコンサート」を企画 実施した。	目標値	8(3大 学)
				実績値	6(1大 学)
6	子どもの素敵な劇場体験 事業 プリズムサマーワ ークショップ①バックス テージ・ツアー ②ステー ジテクニカルワークショ ップ	動画配信※	(新型コロナウイルス感染症の影 響により、実地講座を動画配信に切 り替えた) 講師：当館舞台技術職員	目標値	①45 ②25
		—		実績値	視聴数 720回

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概 要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場			
1	実演芸術の魅力普及事業 1 ①文学座劇団員によるワークショップ②プリズム・パートナーズ・プロデュース採択団体による演劇ワークショップ	①令和2年10月11日 (日) ②令和2年10月21日 (火)・24日(土)・27日(火)・31日(土) ※	①講師：松本祐子(文学座) ②講師：久保田浩(遊気舎)他劇団員	目標値	①15 ②15
		研修室・リハーサル室		実績値	①20 ②14
2	実演芸術の魅力普及事業 2①河内音頭大人もちょこっと講座 ②能の世界に大人も飛び込んでみよう！	①動画配信※ ②動画配信※	(新型コロナウイルス感染症の影響により、実地講座を動画配信に切り替えた) 講師： ①山崎美恵鷺・かわち撫子会 ②観世流シテ方山中雅志 高安流大鼓方安福光雄 高安流ワキ方原大 他	目標値	①20 ②50
		—		実績値	①視聴数 10,600回 ②視聴数 750回
3	実演芸術の魅力普及事業 金子三勇士ピアノの世界	令和2年12月9日 (水)	出演：金子三勇士(ピアノ)	目標値	50
		レセプションホール		実績値	45
4	子どもの素敵な劇場体験事業 1 プリズムサマーワークショップ日本を代表する劇団文学座劇団員と一緒に！1日集中えんげき講座	令和3年3月25日 (木) ※	講師： 高橋ひろし・永川友里(文学座)	目標値	15
		レセプションホール		実績値	31
5	子どもの素敵な劇場体験事業 2 プリズムサマーワークショップ能の世界に飛び込んでみよう！	動画配信※	(新型コロナウイルス感染症の影響により、実地講座を動画配信に切り替えた) 講師： 観世流シテ方山中雅志 高安流大鼓方安福光雄 高安流ワキ方原大 他	目標値	45(1日 15×3日間)
		—		実績値	視聴数 750回

6	地域の魅力発信事業 1 「吹奏楽のまち 八尾」魅力発信事業①八尾市吹奏楽フェスティバル ②その他「吹奏楽のまち 八尾」魅力発信事業	①令和2年7月12日 (日)(中止)※ ②情報発信事業のみ 令和2年4月～3月※	①(新型コロナウイルス感染症の影響により中止) ②宮川彬良書き下ろしの地域オリジナル曲「吹奏情話 八尾」のウェブ上での発信や八尾を拠点とする市民吹奏楽団体の活動を発信	目標値	①吹奏楽フェスティバル 2,800 (入場者 2,050、 演奏者 750)
		—		実績値	—※
7	地域の魅力発信事業 2 河内音頭やおフェスタ	令和3年1月10日 (日)※	出演：八尾本場河内音頭連盟所属音頭取り	目標値	1,000 (入場者 930、 出演者 70)
		大ホール		実績値	198※
8	芸術文化のリーチ事業 1 芸術文化の課外授業	①②動画配布※	(新型コロナウイルス感染症の影響により、実地講座を市内小中学校全校への動画配布に切り替えた)	目標値	1,000
		—		実績値	対象者 19,370※
9	芸術文化のリーチ事業 2 課題解決支援ワークショップ①母子ホーム歌のワークショップ(仮称) ②不登校児の通所スクールでのワークショップ(仮称)	①②動画配布※	(新型コロナウイルス感染症の影響により、実地講座を市内小中学校全校への動画配布に切り替えた)	目標値	①40 ②15
		—		実績値	①50※ ②20※
10	芸術文化のリーチ事業 3 あらゆる人に感動お届け事業①フレンドリーコンサート ②八尾市立病院ロビーコンサート	①令和3年3月10日 (水) ②動画配布※	①出演：相愛大学大学院音楽研究科 ②(新型コロナウイルス感染症の影響により、実地講座を市内小中学校全校への動画配布に切り替えた)	目標値	①100 ②150
		①レセプションホール ②—		実績値	①100 ②—※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価																	
社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。																	
【1. 総括評価】達成した。新型コロナウイルス（以下、「コロナ」という。）の影響により2事業は中止したが、7事業は動画配信など内容変更、2事業を規模縮小や部分的な中止、残る11事業は延期の工夫や十分な感染対策をした上で予定通り実施した。実施においてはいずれも下記2、3に示すエビデンスや分析の通り、ミッションに基づいた各構成要素の組み立てで、企画した企画内容にて遂行できた。 【2. 組み立ての妥当性に関するエビデンスと分析】 【エビデンス】：法律および市の芸術文化振興プランに基づき当館のミッションを設定し、それに基づく事業計画を八尾市に提案、実施した。指定管理者として、そのプロセスと結果をモニタリングで確認された。ミッションの下に、R2年度から会館スタッフ参加による協議のもと、新たに「8つの目的事業」を設定した。昨年度の事業区分からより目的志向に精練した。【分析】：これらにより個別事業との組み立ての妥当性は担保できたと分析する。 文化芸術基本法 推進基本計画 八尾市芸術文化振興プラン 地域の特性、要請 （ミッション） 人生がかがやく あなたの人生が ブルースムホール 目的別事業A 目的別事業B 目的別事業C 目的別事業D 目的別事業E 目的別事業F 目的別事業G 目的別事業H 8つの事業の組み立て <table border="1"> <tr> <td>劇場の真価を発揮</td><td>①豊かな鑑賞促進</td></tr> <tr> <td>社会課題を解決する</td><td>②市民活躍支援</td></tr> <tr> <td>シビック・プライドを醸成する</td><td>③アート人材養成</td></tr> <tr> <td>芸術文化活動を支える</td><td>④アート普及啓発</td></tr> <tr> <td></td><td>⑤子どもの健やかな育ち促進</td></tr> <tr> <td></td><td>⑥人生の豊かな関わり支援</td></tr> <tr> <td></td><td>⑦地元の魅力未来発信</td></tr> <tr> <td></td><td>⑧芸術文化の基盤整備</td></tr> </table> 人生がかがやく 8つの目的事業 【3. 個別事業の合目的性及び内容変更した事業に関するエビデンスと分析】 【エビデンス】：ミッションと個別事業は「8つの目的事業」により整合性を図った。「8つの目的事業」には、上位目的、下位目的、求める事業内容、対象者を記載したが、企画書にもそれらを明記することを求め、2回/月の企画制作会議で進捗を確認、ズレが起きた場合は修正を行うことでミッションからのつながり（合目的性）を担保した。内容変更したものは、当初企画の対象者、目的、内容を維持しつつ変更案を企画した。特に「人材養成」「普及啓発」事業では、対象が学校、母子ホーム、病院等であったため、感染防止策として接触を避けることを重視した。動画等作成にあたっては、当初企画の芸術家、実演団体を起用し、質の担保を図った。【分析】：これらにより個別事業、内容変更した事業ともに適切に組み立て、企画した価値を対象者に提供できたと分析する。		劇場の真価を発揮	①豊かな鑑賞促進	社会課題を解決する	②市民活躍支援	シビック・プライドを醸成する	③アート人材養成	芸術文化活動を支える	④アート普及啓発		⑤子どもの健やかな育ち促進		⑥人生の豊かな関わり支援		⑦地元の魅力未来発信		⑧芸術文化の基盤整備
劇場の真価を発揮	①豊かな鑑賞促進																
社会課題を解決する	②市民活躍支援																
シビック・プライドを醸成する	③アート人材養成																
芸術文化活動を支える	④アート普及啓発																
	⑤子どもの健やかな育ち促進																
	⑥人生の豊かな関わり支援																
	⑦地元の魅力未来発信																
	⑧芸術文化の基盤整備																
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。																	
【1. 総括評価】達成した。前述の8つの目的事業の中において、3つの意義を明確に反映しており、事業の全てはこれに沿って組み立てられている。下記の内容の通り、3つの意義が継続的に認められる。 【2. 文化的意義】達成した。 八尾市に唯一の拠点施設として「劇場の真価を発揮することで人生がかがやく」よう、八尾らしい催しを含め、ジャンルが偏ることなく市民に本物の芸術文化との出会いを専門的に提供した。【事例】：地元にある歴史的な場所を会場にご当地のグルメと芸術を融合した催し「まちで魅了する舞台」、クリニックや演劇ワークショップなどの普及事業をセットした地域に文化の拠点を形成する「大阪フィルハーモニー交響楽団」や「文学座」の公演を実施した。【エビデンス】：その結果、アンケートでは公演事業3事業で「心が豊かになった。元気になった」の回答率が目標数より2%近く上回った。【分析】：地域文化の芸術水準が高まり、心が豊かになった人を増加させた。 【3. 社会的意義】達成した。 「社会課題を解決する」中で、地域であらゆる対象者に芸術文化にふれる機会を提供した。「子どもの健やかな育ち促進」や「人生の豊かな関わり支援」の目的のもと、【事例1】：市内の教育機関・福祉施設・医療機関を訪問する「芸術文化のリーチ事業」を企画した。しかし、コロナの影響により、訪問は行わず、DVDの配布に内容を変更した。DVDには、劇場のミッション、演劇やクラシックについてのお話し、朗読・演奏を盛り込んだ。【エビデンス1】：その結果、教育機関43校、福祉施設2施設、医療機関1施設が芸術文化に触れる機会を提供できた。【事例2】：また、「フレンドリーコンサート（2回公演）」を継続実施した。【エビデンス2】：障がい者・妊婦・乳幼児の集客数は、両公演とも満席のうちの半数以上達成した。【分析】：1、2により対象者に機会を提供した。 【4. 経済的意義】達成した。 【事例】：「シビックプライドを醸成することで人生がかがやく」の目的のもと、「地元の魅力未来発信」をする「まちで魅了する舞台事業」を実施した。古寺 常光寺でゆかりのある大阪夏の陣をテーマにした講談の公演と配信、市内和食店による特別膳や弁当を添えて地域の魅力を発信した。「大谷康子ヴァイオリンリサイタル」では、ロビーで市内の9店舗と連携しおやつマルシェを開催した。【エビデンス】：その結果、市外からの来場者は全体の68.6%で昨年度よりも30%高かった。また、公演前後の飲食・買い物は、昨年度より上昇し、総額357,000円になった。【分析】：市外にも地元の魅力のPRができ、地域経済の波及効果を生んだ。																	

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

【1. 総括評価】概ね達成した。

公演、人材養成、普及啓発の各事業の全指標 14 のうち 6 件が達成、3 件が未達成であった。5 つの指標については、公演中止や動画配信等への内容変更のため測定不能となった。

昨年度と比較すると達成割合が 11.7% 上昇しており、年々達成度が上がっている。

過去 2 年間の指標設定の不備（高すぎる目標値など）については、目標値の妥当性、選択時の傾向も考慮し、適切な指標・目標設定をすることができた。

【2. 公演事業】達成した。

測定不能を除く全 2 指標のうち、「今後の鑑賞への興味」や「地元への愛着」の高まりといった鑑賞後の影響に関する指標の 2 件とも達成できた。

※要望時は 7 事業を計画していたが、コロナの影響により、2 事業を中止、1 事業が助成対象外（企業の冠名がつく公演に変更）となったため、4 事業で評価した。

事例 1：地域拠点契約事業の大阪フィルハーモニー交響楽団八尾演奏会では、助成を受けられたことにより、公演前に指揮者角田鋼亮氏によるプレトークを追加で実施することができ、オーケストラを身近に感じられる仕掛けづくりができた。内容面では、「コロナ禍を明るく照らす希望の光」をコンセプトに、『ピアノ協奏曲第 5 番「皇帝」』、『オリンピックマーチ』、『序曲 1812 年』など、元気づけられるプログラム編成とし、今後の鑑賞への興味も高めた。**エビデンス**：「今後の鑑賞への興味向上」については、目標 30% のところ実績は 31.5% で達成できた。また、「鑑賞したいと思った理由」の中で、「演目・曲目が良い」が 50% 以上、顧客満足度は、昨年度 82.6% に対し今年度は 89.8% で 7% 以上上昇し、好結果であった。

事例 2：R2 年度で 2 年目となるシリーズ「まちで魅了する舞台」では、食や観光スポットなど芸術文化とは別ジャンルの地元の魅力とコラボレーションすることで、これまで芸術文化にあまり関心のなかった層や地元にあまり関心の無い層に対してもアプローチすることができた。**エビデンス**：シリーズ全体として、地元への愛着が高まった方が、目標 20% のところ 21% という実績を得た。このシリーズの「大谷康子ヴァイオリンリサイタル」では、コロナによる半年間の主催事業自粛後初の公演ということもあり、アンケートの該当項目無回答者を除くと、96.6% という非常に高い満足度を得ることができた。**分析**：これらにより達成できたと認められる。

【3. 人材養成事業】概ね達成した。

測定不能を除く全 3 指標のうち、満足度、「参加者の専門知識活用度向上」といった参加後の影響など 2 件達成でき、「概ね」とした。

アートマネジメントに携わる人や市民ボランティア、地域の子どもや青少年たちに向けて講座等を開催した。当該事業のアンケート結果は、満足度が 86% と高かった。

事例：地元の魅力を発信する「河内音頭」においては、次世代の実演家の育成に取り組む予定だったが、コロナの影響により講座の中止を余儀なくされ、「河内音頭の踊り方」の動画配信に内容変更して実施した。**エビデンス**：例年延べ参加人数 80 名程度のところ、7 ヶ月程度で 10,600 回の再生回数となった。

分析：視聴された方にアンケートは取れていないが、再生回数の実績から「参加者の専門知識活用度」向上とともに、興味関心を高めることができたと認められる。

【4. 普及啓発事業】中程度達成した。

測定不能を除く全 4 指標のうち、満足度、参加者数の指標 2 件を達成した。50% のため、「中程度」とした。

子どもの劇場体験や地域の魅力を発信する事業、様々な人へ芸術文化を届ける事業等を実施した。当該事業のアンケート結果は、満足度が 86.2% と高かった。

事例：子ども・青少年や社会的弱者に芸術文化を届ける事業については、コロナ禍での実施が難しく、動画配信や DVD を製作して配布した（母子ホーム、不登校児の通所スクール、コロナ感染者を受け入れしている市立病院など）。特に、小・中学校においては、学校での芸術鑑賞も中止となっていることから、市内の全校に DVD を配布し、芸術文化に触れることで少しでもコロナ禍の子どもたちを元気づけられるようメッセージを込めた。**エビデンス**：数校の聞き取り調査の結果、「コロナ禍で音楽の授業など内容が制限（リコーダー、合唱など実施しないこと）されている中で、DVD はよい教材であった」などの声を頂戴し、評価を得た。

分析：体験型講座のコロナ禍での実施は難しい状況であるが、定員制限や実施回数の増設など密を避ける対策や、動画制作、動画配信等の手法を活用することで、比較的高い満足度をキープすることができたと分析する。

指標の達成状況

		R2年度		H31年度		H30年度	
		数	割合	数	割合	数	割合
指標総数		14	—	20	—	13	—
達成		6	66.7%	11	55.0%	7	53.8%
未達成	ほぼ達成	1	11.1%	5	25.0%	—	—
	指標不備	—	—	2	10.0%	4	30.8%
	未達成	2	22.2%	2	10.0%	2	15.4%
中止等により測定不能		5					

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【1. 総括評価】達成した。

申請事業全 20 事業（3 事業は中止もしくは取り下げ）のうち全事業で事業期間・事業費ともに当初の計画通り適切に実施できた。（コロナの影響によるものは除く。）

【2. アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。】達成した。

事業実施に関しては、進捗管理プロセスを設定しており、それに沿って行った。

事業実施前に、詳細な広報計画も含めた企画書と、特に公演事業については、広報計画を踏まえた「チケット販売管理表」を作成し、上司の決裁ならびにスタッフに共有するなど進行と事業期間管理をした。

【事例】「かわち音頭やおフェスタ」については、通常 8 月に実施しているものを 1 月に延期したが、上記プロセスにより、コロナの状況の変化を捉えながら、延期先日程等を判断し進めた。**【エビデンス】**結果、5 ヶ月先への延期を決めたことで、度重なる延期の判断や中止に追い込まれることがなかったため、事業期間を延ばすことなく当初の計画（期間）通り進めることができた。**【分析】**その他、動画配信等への内容変更による事業期間の変更（講座が実施できればその日で終了したものの、動画配信のために編集作業等で期間が延長した）はあったものの、臨機応変に対応し、事務処理等も含めて遅滞することなく、ほぼすべての事業で計画通りに進んだため、達成したと分析する。

【3. アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。】達成した。

事業費に関しても、当初の予算立てと予算執行プロセスのもと実施した。

すでに決定している指定管理料に対し、助成金獲得や時世の影響も加味した予算案を最終修正し、年度の予算を立てている。その予算案は、館長も参加の制作会議で皆で協議し、調整したうえで決裁を受けている。

【事例】実施事業の予算執行に関しては、通常の半期・年末・年度末の年 3 回決算見込みを作成している。コロナの影響により大幅な収入減が見込まれる「大阪フィル八尾演奏会」については、広告宣伝費・ダイレクトメール送付料などを的確に削減し、また乖離や超過などの問題がないか、例年以上にこまめに確認し共有した。**【エビデンス】**結果、助成対象事業の事業費は予算に対し 82.6%に抑えることができた。これら費用に対し、顧客満足度は平均 82.1%と高い数字をキープするとともに、公演事業（4 事業）の入場者率は、感染対策のための定員制限はあったものの、目標 84.6%に対し 86.0%という高い結果となった。**【分析】**それらを踏まえ、経費面・内容面両方において、事業費に見合ったアウトプットであったと言える。事業費は、すべての事業において、コロナの影響によるものを除き、当初の設定予算から大きく違えることなく、また収支も問題なく推進できたため、達成したと評価する。

※コロナの影響ではあるが、計画と比較して乖離があったものについては、

・「普及啓発 4：子どもの素敵な劇場体験事業 1」

日本を代表する劇団文学座劇団員と一緒に！1 日集中えんげき講座」

当初 1 回での実施を計画していたが、密を避ける対策として 2 回実施に増設したことにより、委託料等の支出が増額となった。

・「普及啓発 8：芸術文化のリーチ事業 1 芸術文化の課外授業」

当初小学校 3 校、中学校 3 校での実施を計画していたが、市内全校への DVD 配布としたため、出演費が大幅に減額となった。

助成対象事業費の予算に対する決算比率と満足度

	予算に対する決算比率	満足度
公演事業	93.0%	80.9%
人材養成事業	80.8%	79.2%
普及啓発事業	73.9%	86.3%
全体	82.6%	82.1%

公演事業(4事業)の入場者率

目標	結果
84.6%	→ 86.0%

・コロナの影響による収入減を踏まえ、事業費を可能な限り圧縮した。
・経費の圧縮に対し、高い満足度をキープでき、入場者率も高かった。
効率よく実施できたと認められる。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

視点1劇場・音楽堂等が地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮するための資源が何か確認する。

【1. 総括評価】達成した。劇場・音楽堂等が地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する資源は下記の通り継続的に認められる。

【2. 劇場・音楽堂等を象徴する人物、鍵となる人物（キーパーソン）の存在】達成した。

当館は財団雇用の館長と舞台長を設置している。館長・舞台長・リーダー等の幹部層は全て生え抜きの財団職員である。館長は芸術事業の質の担保と会館の運営責任を、舞台長は舞台全体の責任を担っている。

【エビデンス1】：館長は就任以降、「あなたの人生が輝く場所 プリズムホール」のミッションのもと、「地域拠点契約事業」や「まちで魅了する舞台」、「演劇助成事業」等本物の芸術に地域の特性を活かした事業を多数立ち上げた。その結果、文化庁等による助成の採択を11年以上受ける等の実績を上げた。【分析1】：そのノウハウを部下のスタッフに伝え人材と運営のマネジメントを行っている。

舞台長は舞台全体の質の担保と舞台技術の責任を担っている。【エビデンス2】：就任以降、「大谷康子ヴァイオリンリサイタル」や「大阪フィル八尾演奏会」等で舞台監督を務め成果を上げた。音響スタッフが優れた技術を有する、スタッフが音楽家と密に意思疎通を行い、上演内容に深い理解を示している等が選定基準となる「日本音響家協会優良ホール100選」に全国2,500以上あるホールの中から選ばれた。【分析2】：舞台とスタッフを育てることができた。【エビデンス3】：また、舞台スタッフが舞台づくりの疑問等にお答えする相談会を実施した。その結果、舞台アンケートで、舞台の実現度・満足度・再利用の意向で100%を達成した。【分析3】：市民のニーズに充分に答えることができた。

【3. 専属団体、フランチャイズ団体、提携団体の存在】達成した。

【事例1】：八尾・高安地域発祥の「高安能」を地域特有の文化の魅力として普及・発信することを目的として、重要無形文化財総合保持者の高安流能楽師と市民で構成される「高安能未来継承事業推進協議会」と提携し、ワークショップを企画した（コロナの影響により、レクチャー動画の配信に変更した）。【エビデンス1】：能舞台の構成、能面・衣装・謡・舞、地域由来の能楽流派＜高安流＞等について紹介し、約750回の視聴があった。また、【事例2】：大阪フィルハーモニー交響楽団と劇団文学座の一流の芸術団体と地域拠点契約を継続的かつ積極的に締結した。地域に根差した公演にワークショップや講演などの普及啓発的な事業をセットして、市民との接点や交流の機会を増やし、作品への理解を深めた上で本物の舞台を提供した。【エビデンス2】：コロナ感染拡大の影響により、両公演とも集客数を半数としたが、集客率は鑑賞事業：約98%、普及啓発事業：100%を達成した。【分析】：1、2により、芸術文化の素晴らしい可能性を引出し、地域に還元することができた。

【4. 創造活動に関わる建物設備等】達成した。

当館の舞台機構を活かして特色のある事業を実施した。【事例】：舞台や劇場に愛着を深めることを目的とした「バックステージ・ツアー」では、舞台スタッフが、子どもを対象に舞台の機材を操作・体験できるワークショップを企画した（コロナの影響により、舞台スタッフが自ら撮影・編集したレクチャー動画配信に変更した）。【エビデンス】：実体験では時間の都合や安全性の問題から見るできない舞台装置を動かす等舞台の仕組みについて紹介し、約720回の視聴があった。【分析】：舞台スタッフが自らが舞台の設備・機器を活かし企画・運営するこのようなイベントは全国的に見ても稀で、設備・機器を熟知した専門職であるから実現した。

【5. その他】達成した。

安全確保のための取組内容として、事業実施の上で「Withコロナにおける取組み」を明確化し、コロナ禍でも様々な手段で芸術文化に触れることができる機会を提供した。【事例】：「河内音頭大人もちょこっと講座」では、河内音頭を幅広い世代に浸透させ普及していくことを目的とし、「河内音頭の踊り方を習いたい」という多くのニーズに応じて、踊り方ワークショップを企画した。しかしコロナの影響で、河内音頭全国発信隊と連携し、踊り方のレクチャー動画配信に変更した。大人の初心者だけでなく、子どもも視聴しやすいように制作した。【エビデンス】：その結果、視聴回数500を目指していたが、約10,600回を達成した。【分析】：動画を通じて芸術文化に触れる機会を提供できた。

視点2地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する事業として優れていると認められるか。

【1. 総括評価】達成した。地域の文化拠点としての機能を最大限発揮する事業として優れていると評価する。

【2. 公演の企画内容、作品の芸術性の高さ、特色】達成した。

＜公演事業＞まちで魅了する舞台事業（2事業）、地域拠点契約事業（2事業）といった質の高い公演を実施した。

【事例】：「まちで魅了する舞台」事業として、今年度もオリジナリティの高い事業を実施することができた。大坂夏の陣にゆかりのある寺社では、地元八尾出身の講談師2名が、合戦時に首を並べ、後にこれを血天井として保存している座敷を会場に、合戦ものの講談会を実施した。（他、ホールで地元自慢のおやつのマルシェとともに楽しんでいただいた大谷康子ヴァイオリンリサイタル、250年以上前から受け継がれる旧家での朗読会や能とコラボレーションさせた弦楽四重奏コンサートの計4本実施。）エビデンス：大ホールを除く3公演でチケットが完売し、好評を得た。分析：このシリーズや大阪フィル八尾演奏会においては、芸術性の高さは担保したうえで、単なる買い取り公演ではなく、“八尾らしさ”を重視し企画することで、八尾独自のオリジナリティのある価値ある公演を実施することができたことと認める。

自己評価

【3. 人材養成、普及啓発の企画内容の高さ、特色】達成した。

＜人材養成事業＞「河内音頭」と「吹奏楽」の次世代実演家養成事業等、地域の魅力発信とイメージアップにつながる6事業を実施した。**【事例】**：「吹奏楽クリニック」においては、コロナ禍である今だからこそできることとして、担当者がいつもは行けない視察に数多く向かった。**【エビデンス】**：各種の課題（全校受講、制限時間の使い切りを増加、講師の偏りの是正など）が明らかになり、学校ニーズにうまく対応することができた。

＜普及啓発事業＞10事業を実施し、幼児・児童生徒や障がい者、高齢者、妊婦などひろく芸術文化に関われる機会を提供した。**【事例】**：「1日集中えんげき講座」においては、発声や密になっての指導が想定される演劇の講座から、距離を取りながら実施できるミュージカルダンスの講座に内容変更し実施した。多数のミュージカルへの出演経験のある文学座講師のスキルにより、参加した子どもたちに短時間で成果や達成感を味わえる内容とすることができた。**【エビデンス】**：顧客満足度100%という数字をたたき出した。

【分析】：上記を含めたコロナ禍ならではの対応が評価でき、達成したと分析する。

満足度(助成対象事業)		参加者の声
公演事業	80.9%	【大阪フィル】 コロナ禍で淀む世の中久しぶりの交響楽。心がふるい立ち、頑張ろうと感じました。そしていやされました。 【音頭フェス】 日本中がコロナで暗くなっている時にこうして大阪からしかも河内から全国に元気を届けて頂きありがとうございました。 【1日集中演劇講座】 自分の将来にとって、とてもプラスな経験になりました。この講座に参加できてとてもよかったです。
人材育成事業	79.2%	
普及啓発事業	86.3%	
全体	82.1%	

【4. 文化芸術情報の整理、蓄積、提供、発信】達成した。

【事例】：コロナ禍においては、直接情報を届けづらいという壁を乗り越え、「こんな時だからこそできる発信」として講座の動画配信や公演のリアルタイム配信を実施した。**【エビデンス】**：中でも、動画配信に切り替えた子ども向け講座（子ども河内音頭講座、「能の世界に飛び込んでみよう!」、「プリズムバックステージ・ツアー」）では、令和元年度延べ参加者数317名のところ、3月末時点で合計12,000回以上の再生回数となっている。**【分析】**：直接生の芸術文化に触れてもらうことができないながらも、想定以上の広がりを生み出した。また、コロナにより蓄積された動画コンテンツは、今後も活用可能となった。

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

【1. 総括評価】達成した。地域の文化芸術の発展につながったと下記の通り継続的に認められる。

【2. 最も関わりの大きいステークホルダー・設置者八尾市との関係】

【エビデンス】：設置者である八尾市では、芸術文化の振興として「芸術文化との関わりの中で心豊かな暮らしを創造」することを目指しており、「地域密着」、「全ての人が芸術文化に親しむ機会の提供」、「芸術文化活動の支援」、「八尾の魅力を高める」ことを事業展開の方向性としている。八尾市の評価は、モニタリング結果から知ることができ、R元年度はS評価で連続での最高評価となった（R2年度はまだ出ていない）。**【事例】**：「河内音頭やおフェスタ」や高安地域ゆかりの能「高安能」といった八尾の伝統文化に関する事業を開催し、八尾市の地域文化を魅力として発信し次世代へ継承する活動や、八尾市が施策として掲げる吹奏楽の普及・振興、魅力を発信した「吹奏楽のまち 八尾」に関する「吹奏楽のまち 八尾魅力発信事業」の取り組み等、市民に芸術文化の魅力を伝える幅広い事業展開を行った。**【分析】**：八尾市の芸術文化振興に寄与することができた。

【3. その他のステークホルダーとの関係】

地域の拠点施設として、市民や地域団体とは多くの取り組みを行った。**【事例】**：事業によって技術支援や定期的な会議等を実施し、事後には反省会やアンケートにより意向を確認した。**【エビデンス】**：コミュニケーションは良好で、その結果、「観光や市民活動支援」、「市民の文化活動の発展」につながった。**【分析】**：主なステークホルダーとの連携とまとめは下記のとおりとなる。

主なステークホルダーとの連携のまとめ

事業種別	ステークホルダーの種類	助成対象事業名	連携内容
公演事業	八尾市観光ボランティアガイドの会	まちで魅了する舞台	会場となる施設周辺のまちあるきガイド
	プリズム市民サポーター	プリズム市民サポーター活動	プリズムホールへの支援・応援
人材育成事業	八尾本場河内音頭連盟	子ども河内音頭講座	唄・楽器（太鼓、ギター等）の指導
	河内音頭全国発信隊		河内音頭の踊り方の指導
普及啓発事業	八尾本場河内音頭連盟	河内音頭大人もちょこっと講座	唄・楽器（太鼓、ギター等）の指導
	河内音頭全国発信隊		河内音頭の踊り方の指導
	高安未来継承事業推進協議会	能の世界に飛び込んでみよう! 能の世界に大人も飛び込んでみよう!	能(仕舞・謡・大鼓)の指導

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

【1. 総括評価】達成した。下記の取り組みの結果、事業を通じて組織活動が持続的に発展しうると認める。以下それぞれの視点での説明とエビデンスや具体的な事例等を示す。

【2. 経営戦略】＜財務の視点＞概ね達成した。

【事例】：コロナ禍により、利用料金収益が前年度比 54%減となった中、R3 年 3 月分貸館の改善、臨時休館中の経費節減、各種補助金等の活用をした。【分析】：その結果、コロナの影響を勘案した補正予算約 1,400 万円の赤字が 86 万円の収益へ逆転改善した。

＜顧客の視点＞達成した。

【エビデンス】：公演の（特に劇場で実施した）顧客満足度は 85.9%で、昨年の 82.4%に比しても高かった。コロナ禍においても本物の芸術へ高い期待感があり、それを満たす供給ができたといえる。

＜内部プロセスの視点＞達成した。

【事例】：指定管理者応募年であり、館長及び職員でプロジェクトを結成、7 年間の中期計画を策定した。この作業を通し、若手も中堅スタッフも、将来ビジョンを視野に入れつつ R2 年度事業を実施することができた。【分析】：その結果、R2 年度事業評価においても中期視点を踏まえた分析ができ、職員の運営実務の強化が見られた。

＜PDCA サイクルによる改善と機能強化＞達成した。

【事例】：現場から得られた知見・課題が、経営会議など各種会議体で報告され、その判断を現場にフィードバックし改善につなげた。事例としては貸館において「緊急事態宣言明け」の利用者の借り控えの声を聴き、対応策を考え組織決定後、設置自治体にキャンセル料支援策等の依頼と協議を行った。【分析】：その結果、貸館及び収益が改善した。

【3. 人事戦略】達成した。

＜学習と成長の視点＞達成した。

【エビデンス】：当方の人財育成方針により「人は成長する『財』」とし、採用後は地域と組織へのロイヤリティを高めミッションを実現しうる人財として、長期的に責任をもって育成した。よって基幹業務はすべて正職員としている。

【事例】：職員の平均在職年数は長く、昨年度育休取得の女性 2 名も復帰し、出産後の職員復帰（全 5 名）の定着率は 100%、さらに管理監督職に占める女性の割合は 50%（12 人中 6 人）。【分析】：女性活躍やノウハウの蓄積が進み、組織として強化された。

コロナ禍においても内部・外部研修（専門）を全員に実施した。全国公立文化施設協会（以下、全国公文協）のオンライン研修には、管理職・舞台技術スタッフを含む約 95%が受講。組織が成長し、持続的発展につながっている。

＜PDCA サイクルによる改善と機能強化＞達成した。

【事例】：人財育成型人事評価制度により、評価の結果や伸ばしたい点を本人に直接フィードバック面接で説明した。スタッフは次期に向けて自身の取り組むべき内容を確認した。その結果を次の業務で反映する仕組みとしている。【分析】：劇場人財が育成されており、人材面での持続的発展が認められる。

【4. 各方面とのネットワーク】概ね達成した。

【事例】：全国公文協、近畿支部会、大阪府文化施設連絡協議会と地区別の東部地区会議の 4 会に加え、当年は大阪アーツカウンシルの会議へも参加した。コロナ禍における各館の状況や対応策の共有をした。教育機関とのネットワークは、大学からのインターンシップを実施した。3 大学との連携予定はコロナ禍により、1 大学のみとなった。

館長が全国公文協の支援員や研修講師として派遣の他、職員が大阪アーツカウンシルシンポジウムに登壇し事例発表するなどにつながった。

【5. 施設面】達成した。

【事例】：施設面では建物・設備の定期的な維持管理を行った。舞台技術職を雇用しており、日常的な維持管理の他、長期修繕計画を策定し、専門的観点から設置自治体に示唆を行った。具体的には R3 年度の大規模改修実施に向けて、八尾市に対し舞台技術面、施設管理面、運営面において多面的に提案した。これらは一定改修内容に反映された。【分析】：これら適切な維持管理のもと、組織の持続的発展が認められたと分析する。

R2年度 正味財産額 補正予算と決算（単位：千円）



●組織図 (R3年3月現在)

赤字記載スタッフは正規専門職員

